

令和6年9月13日

産 業 厚 生 委 員 会

阿久根市議会

1 会議名 産業厚生委員会

2 日時

(1) 期日 令和6年9月13日(金)

(2) 開会 午後1時50分

(3) 散会 午後2時15分

3 場所 第1委員会室

4 出席委員

竹之内 和 満 委員長、大 野 雅 子 副委員長、白 石 純 一 委 員、
大 田 基 次 委 員、竹 原 信 一 委 員、牟 田 学 委 員、
濱 田 洋 一 委 員

5 事務局職員

議事係主任 松 林 俊 介

6 会議に付した事件

所管事務調査について

7 議事の経過概要 別紙のとおり

審査の経過概要

竹之内和満委員長

ただいまから産業厚生委員会を開会します。

○ 所管事務調査について

竹之内和満委員長

所管事務調査を議題とします。

前回の委員会において調査を継続することと決定し、次回の委員会で調査方法について委員の皆様にご意見を伺うこととしておりました。

産業厚生委員会の調査事項は、一つ目が、観光の振興に関する調査について。

二つ目が旧港及び青果市場跡地を含む市街地活性化に関する調査について。

三つ目が新道の駅整備に関する調査について。

以上の3項目を定めています。これらの調査事項に関する調査方法について、皆様の御意見をお伺いしたいと思います。

何か御意見ございませんでしょうか。

白石純一委員

現地視察を、私はしたいところがあります。

2か所あるんですが、1か所目は、牛深ですね、天草市牛深の、前回、水中を見るボートに乗れませんでしたので、その遊覧コースの試乗をしてみたいというのとですね、あわせて、牛深はハイヤ祭りが非常に盛んでありまして、これ毎年ゴールデンウィークのときに2～3日かけて、大変な人を集めております。

私は、個人的に行こうとしつつ、スケジュールが合わずになかなか行けてないんですが、その現地のハイヤ祭りの概要について調査すれば、阿久根のみどころいまつの参考にも、充分観光振興につながるんじゃないかと思っています。

それがまず1か所目です。

2か所目は、山口県長門市のセンザキッチンという道の駅、仙崎っていう港があるんですけども、そのカタカナでもじってセンザキとキッチンを合わせてセンザキッチンという道の駅がありまして、そこは港を活用した道の駅ですので、これも1、2、3いずれの参考にもなるのではないかなと思っています。

〔「牛深のはいつあるのけ」と呼ぶ者あり〕

牛深のハイヤ祭りは毎年5月のゴールデンウィークです。

竹之内和満委員長

それを直接見るという。

白石純一委員

いえいえ。

竹之内和満委員長

ではなくてその話を聞くという。

牟田学委員

道の駅についてなんですけれども、今まで、高速と一般道の両方から入れる道の駅をずっと調査をしてまいりました。

今、考えているのは、たしか何年か前にですね、福岡にあった名前はちょっと忘れましたが、道の駅で、福岡市内を商圈にした道の駅で、たしか年間6～7億円売り上げた道の駅があるんです。

そこを見るっていうんじゃないくて、まあ見ていいんですけれども、果たしてそのまま維持をしているのか、その道の駅が。売上げ的にも。そういうところも、ただ、今まで私たちは新しい道の駅をずっと調査してきましたけれども、その当時7億ぐらい売り上げとって、もうすごい人でした。そういうところが、果たして今6～7年たっても、その当時をそのまま維持をしているのか、それとも衰退しているのか。やはり、そこあたりも調査をする必要があるかなって。

そういう道の駅、福岡に2つ行ってまいりました。

一つはもう、鮮魚。活魚。そういう専門にした、そこもものすごい人でしたよ。それも何年か前でしたけれども。

ただ新しくできた道の駅を調査をするんじゃないくて、そのあとどういうふうになっているのか。果たしてその当時の売上げをそのまま維持しているのか。それとも、落ち込んで衰退しているのかっていう、そこあたりもやはり調査をする必要があるかなと思います。

竹之内和満委員長

すいません、場所はどこ。

白石純一委員

その2か所を、所管事務調査で行かれたんですか。私は行ってないんですけど、福岡を商圈として今も、数年前も今も大きな成功と言われてるのは、宗像。

〔牟田学委員「宗像だったかな、行ったの」と呼ぶ〕

竹之内和満委員長

鮮魚ですね。

白石純一委員

長島町がつい先日、現地視察に行ったみたいです。

牟田学委員

だからそういう、そのまま維持しているのか、それとも落ち込んでいるのか、そういうのもやはり調査をせんとですね。ただ、今まで私たちもつくったところを見に行っても、結果を見たいなと。

竹之内和満委員長

2か所だったらもう1か所あるんですかね。

牟田学委員

それが、ちょっと記憶が。

白石純一委員

もう1か所は、再生可能エネルギーの、バイオマス発電ではなかったですかね。

牟田学委員

いや、違います。そこも道の駅だったんだけど。

白石純一委員

道の駅で、すぐ隣にバイオマスの、佐賀県の。

牟田学委員

違う、福岡県だ。

白石純一委員

なんとか町。

牟田学委員

いや、事務局に後で探してもらいます。

竹之内和満委員長

暫時休憩いたします。

(休憩 午後 1 時58分～午後 1 時59分)

竹之内和満委員長

休憩前に引き続き、委員会を再開します。

ほかにございませんか。

竹原信一委員

阿久根の A－Z は、もう既に地元根づいて大変な集客数、年間650～700万人を集めている。まあ言ってみれば観光も兼ねての店になってしまってるわけですね。

そして、それを無視しちゃいけないし、阿久根にとっての関係人口としてはもう最大のものです。大成功を収めてるんですよ。既に。

私たちは、観光振興ということでそれに何人ぐらいを追加していこうと考えているのか。そのために税金を幾らぐらい使っているか。

そこら辺を考えるとですね、ほとんどできることはないと思うんですよ。

やったところで、もうねえ、650万人に1万人足すことなんかできやせんでしょう、恐らく。

おかしいんじゃないかなと。税金の使い方としてね、大変な空振りになるのが目に見えてるような気がしますよ。どうでしょう。

トータルとして見なきゃいけないと思いますよ、私たちの仕事を。

竹之内和満委員長

それは、所管事務調査は必要ないという。

〔竹原信一委員「ないです」と呼ぶ〕

白石純一委員

この委員会の結論として、結論というか所管事務調査を何をするかということで阿久根にとってこれらの3つの観点が必要だということを結論として出してますので、そのときは、こういう調査は要らないという結論には一切至っていないと思いますので、やはりこれは、実際、うまくやれば、当然阿久根の経済振興に役立つものだと思いますので、所管事務調査は進めるべきだと思います。

竹之内和満委員長

その所管事務調査をする、しないについて何か御意見ございますか。

濱田洋一委員

この所管調査というのは、当初、それぞれの常任委員会に分かれた中におきまして、当然、それぞれ担当といたしますか、この3つの調査事項を決定した中でこれまで動いているんですけども、特に我々のこの常任委員会の中では、今後できるであろう新道の駅の整備であるとか、現在のですね、阿久根市の今後、現在からまたこれからを踏まえた中で大事

な観光振興、それから青果市場跡地の活用ということですので、先ほど来、白石委員、また、牟田委員から話がありましたように、観光を含めたところであったり、また非常にいいなと思うのが、祭りの分野で地域活性化ということで、5月の連休にハイヤ祭りをされると。その例えば、ほかの自治体でのそういった祭りの行い方とか、取組内容とか、そういうのを全く我々も調査研究したことはありませんので、非常に、また、いいことではないのかなと思っております。

そして、先ほど牟田委員からもありましたとおり、やはり以前行かれた、道の駅が今現在どういうふうになってるのか。

以前行かれたときよりも、いわゆる繁盛しているのか、それとも、いろんな課題が出てきて、なかなかいい方向に進んでないというようなこともあるのかですね、そこら辺も、やはり今後新たな道の駅を整備していく中では、そういうのも頭に入れつつ中で、行政のほうにも、提言、提案等をやっぱりしていかなければならないと思いますので、やはりこの所管調査というのは必要なものじゃないかなというふうに思います。

大田基次委員

この青果市場跡地に何か造る、新道の駅を、何か箱物を造るという発想じゃなくて、我々議員の知識を高めるという意味で私はやるべきだと思うんですよ。

全く何も知らないよりは、やはりいろんなことを知るっていうことが、これから先の皆さんの議員活動にとっても重要なことだと思います。

竹原信一委員

阿久根市の重要課題ということで、観光などもやってきてるわけですけども、議会は本来やるべき政策検討会をただの一度もやったことがない。そういったことを、それをするんだということを前提にですね、私たちは調査もしなきゃいけないはずなんですよ。勉強してきましたではよくないわけですよ。

そしたら、今の阿久根市の現状、そして将来見通しを含めて、もうA-Zあります。それを無視して物事を考えちゃいかんわけですよ。連携をする必要もあるかもしれない。あれを生かすとかね、利用するような形ですることでもあるかもしれない。無視しないで、在り方をつくっていかなくちゃいけない話。このままだと、どっちみち市民の意識はA-Zですよ。

私たちが、私というか、市役所が何かしても瞬間的なお祭りで終わっちゃいますよ。分かるでしょ。つながった形で物事は考えないと、そして将来を見越して、執行部のいつていところのね、全体的な、そこら辺も含めてですね、私たちのこの委員会だけで終わらせるような発想ではよくないと思いますよ。

大野雅子委員

皆さんの意見を聞いてて、私は、阿久根はまあ確かにA-Zがあって、A-Zの話を聞きに行くのも大事かなと。そこでいろんな話を聞いてみるのも大事かなと確かに思います。

だけど阿久根は、もう本当に収益が限られてるので、なるべく観光で人を呼んで、そこでお金を少しでも落としてもらって、交流人口、そういうのを増やしていこうという形でやっていますので、そうすることが市民所得も上がってくるもとだと私は思っています。

なので、そのためには、まちを魅力あるまち、よその人から来てみたいと思うまちに、全体的をプロデュースする必要があるんじゃないかなと思ってます。

〔竹原信一委員「全体としてね」と呼ぶ〕

はい、そうです。

その一つとして、今一生懸命考えてくださいというのが新道の駅だったり、その新しい青果市場の跡地をどう活用して魅力をもっと、阿久根はおもしろいところだよ、来てみない。ここで食べてみない、遊んでみないということで仕掛けていってるんだと思います。

そして、若い人たちがこの間温泉祭りもやってくれました。みんなが、若い人たちがやる気になってるところだと思うんですね。

それには、もう下手なことをとか言われるんですけど、私たちはやっぱりいろんなところの知識をもらってきて、こういうところがあったよという、下支えとかそういうのもできるようにってないといけないと思うんですね。

この、ほんとにネット上のことじゃなくて、現地に行って、その人たちの話を聞いて、苦労を聞いて、実際はね、ここら辺が大変だったんですよ。この表面だけの数字じゃなくて、実際に動いたその人たちの話を聞いてこないと現実は見えないと思うんですね。

それなので、やっぱり現地調査は大事だと思います。

牟田委員も言われたように、前、はやってたところが今どうなってるかとかいう調査も、阿久根が今から道の駅をつくったときにどうなんだろうかというのを想像するためにも、それも大事だと思いますし、そして悪いほうに行かないようにいくためにも、勉強しておかないといけないと思うんですね。なので、今上がってる牛深のハイヤの話にしても、水中ボートの話も、この間私が提案した佐潟鼻のあそこは道で車が行けないから、じゃあ水中ボートで行くようにしてあげたら、倉津から行ったらいいじゃないのっていう人もいらっしゃいました。そういうのも、今ここでボートが実際1台あるのに、それを使わずに動かない状態になってます。それもうまいこと活用して、温泉の今度の泉源のこともそうですね。一つずついろんなのがありますので、それをどう活用していくか、そういうのを考えるのも議員の仕事だと思うんですが、はい。

私は賛成です。所管事務調査に行きたいと思います。

竹之内和満委員長

皆さんの意見をお聞きしました。

まずは所管事務調査を継続するかということに関して、諮った方がいいですかね。

所管事務調査を行うかどうかについてお謀りしてよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

意見はもういいですか。

所管事務調査を引き続き行うことに賛成の方は、挙手をお願いします。

〔賛成者挙手〕

挙手多数ということで、所管事務調査を継続することと決しました。

その中で今、幾つか案が出てきました。

今のところですね、道の駅が3つですね。

山口県のセンザキッチン、福岡県の道の駅むなかたともう一つの2か所です。これは調べます。あと、牛深の遊覧船、水中ボート、ハンヤ節、これはどっちかという観光の振興に関する調査になるのかと思います。

ほかにはないですね。この中から決めてよろしいでしょうか。

〔「お願いします」と呼ぶ者あり〕

ほとんど九州管内、山口なんですが、暫時休憩に入ります。

(休憩 午後 2 時 9 分～午後 2 時14分)

竹之内和満委員長

休憩前に引き続き、委員会を再開いたします。

今出た御意見ですね。山口も含めてよろしいですか、センザキッチンも。

調査の時期や調査の内容、調整等については、委員長に御一任いただいてもよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議がないということで、詳細につきましては、内容が決まり次第、皆様にお知らせいたします。

以上で、本日の産業厚生委員会を終了いたします。

(散会 午後 2 時15分)

産業厚生委員会委員長 竹之内 和 満